

PROFILE

山田 充彦

信州大学医学部分子薬理学講座

私は、2004年7月に大阪大学大学院医学系研究科情報薬理学講座から信州大学に赴任いたしました。すでに3年以上も経過しており、いまさらProfileをお書きするのは気恥ずかしい気もいたしますが、執筆のご依頼を受けたことは大変光栄ですので、私のこれまでとこれからの抱負を述べさせていただきます。

私は1984年に神戸大学医学部医学科を卒業し、同大学の内科学第一講座に入局しました。そしてその後3年間の臨床研修を済ませて大学に戻りました。当時の私は臨床医として一流になることしか頭にありませんでしたので、福崎教授(当時)から基礎研究をせよと指示を受けた時は大変失望しました。しかし、研究を始めるとすぐにはまってしまうしました。神戸大学には、Cキナーゼを発見された西塚先生、高井先生が居られましたので、私も横山教授(当時)の下で心筋細胞のPI代謝が心肥大に果たす役割を研究し、博士号を取得しました。しかし研究をするうちに、自分が心筋細胞の興奮性を全く考慮せず情報伝達系を研究していることに疑問を感じ始め、心臓電気生理の勉強を始めました。予備知識もなく独学でしたので大変苦勞しましたが、入沢先生や野間先生の金字塔となる論文を読んで感動しておりました。また最初に最後に沼先生の講演を聞いたのも、この頃でした。そのうち、情報伝達系とイオンチャネルの連関を研究している倉智先生という方が居られることを知り、自分は是非この先生に学ばなければいけないと考えるようになりました。当時倉智先生はメイヨークリニックに居られ、ちょうどポスドクを探しておられたので、私は横山先生にお願いして

留学をさせていただきました。そこで初めてパッチクランプ法を学んだときの喜びは今も忘れることができません。それから私はパッチクランプをすることの楽しさだけで、15年という長い歳月を過ごして来たと思います。

このように私はパッチクランプだけの人間ですので、信州大学に赴任しても心臓を中心とした循環器系のイオンチャネルの研究を行っています。しかし世界的に心臓生理学は非常に難しい局面にあると思います。何が残された最も本質的な課題であるかはそう簡単には分かりません。しかし私は、重要な課題の一つは、心筋細胞がどのようにあのような高度に分化した生理特性を獲得し維持しているのか、それが病態でどう崩れていくのかということではないかと思います。それを自分の電気生理の技術と、教室員がもたらす新しい技術と組み合わせて、分子レベルで解いていくことができれば、この上なく幸せだと考えています。また私は薬理学を専攻していますので、得られた知見を新しい薬物療法の種に仕上げていくことも大



変重要です。浅学不才ですので課題の重さにつぶされそうですが、何とか心臓生理・薬理学を若返らせることができるように、これからも無い知恵を絞って努力していきたいと思っています。

略歴

1984年 神戸大学医学部医学科 卒業

1984年 神戸大学医学部内科学第一講座 入局

1992年 メイヨークリニック内科心・血管病部門 リサーチフェロー

1994年 大阪大学医学部第二薬理学講座 助手

1998年 国立循環器病センター研究所心臓生理部神経性調節研究室 室長

2002年 大阪大学大学院医学系研究科情報薬理学講座 助教授

2004年 信州大学医学部分子薬理学講座 教授